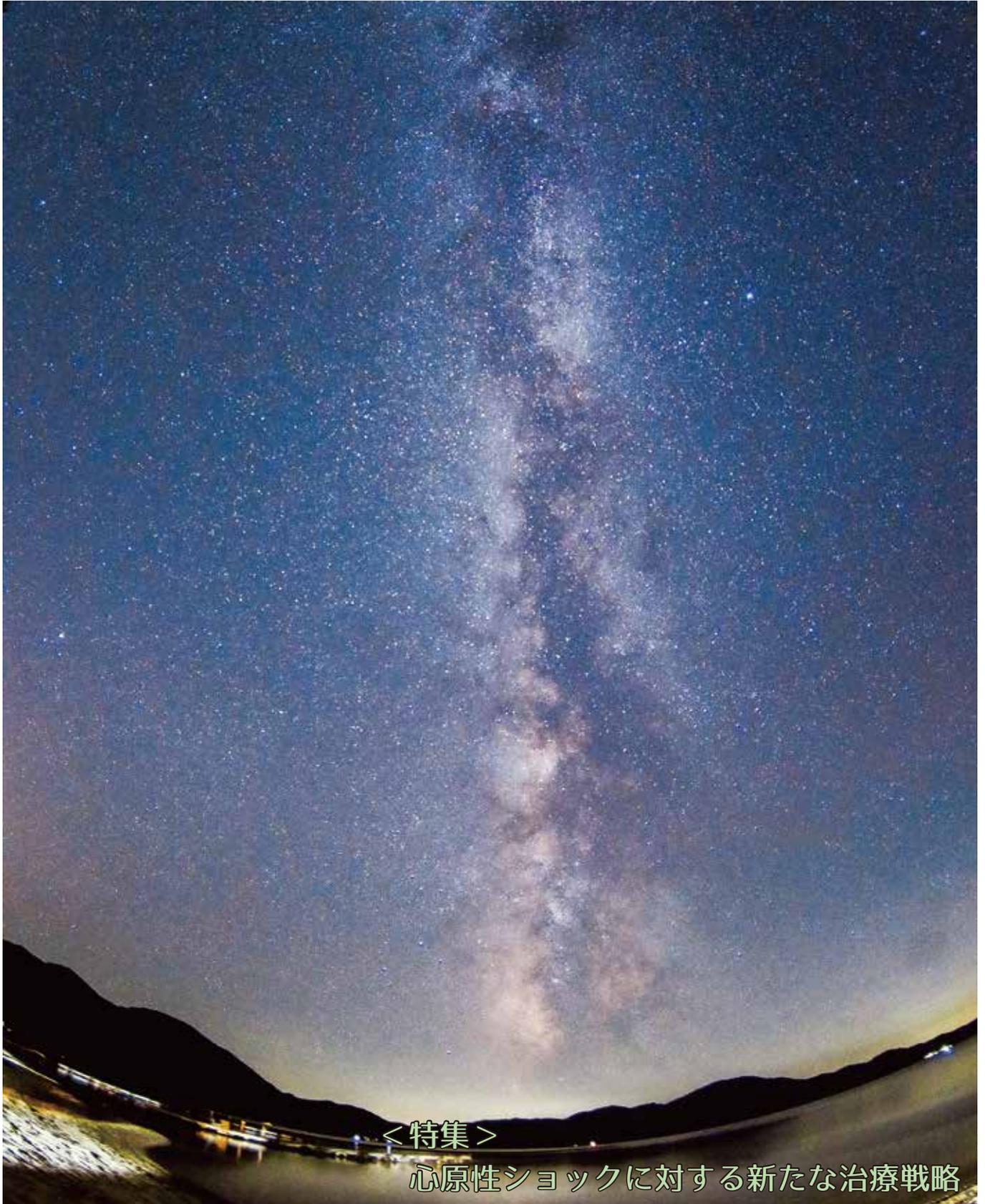




独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター広報誌

2023
夏

はらじゆくかわら版



<特集>

心原性ショックに対する新たな治療戦略

「田沢湖から天の川を見上げて」放射線科 黒崎栄治撮影

診療科紹介

乳腺外科



2023年4月1日より乳腺外科医師として着任いたしました^{きむらあき}木村安希と申します。

当院では昨年度まで非常勤の乳腺外科医師と一般外科医師で乳腺診療を行っておりましたが、今年度より常勤の乳腺専門医がいる体制で診療を行うことができるようになりました。当院乳腺外科での診療内容は大きく分けて以下の3つとなります。

- ① 乳がん検診：当院は横浜市乳がん検診の実施施設となっております（月曜日：終日、金曜日：午後）。触診やマンモグラフィーで異常がみつければすぐに保険診療に切り替えて精密検査を行います。触診・マンモグラフィーの撮影は女性スタッフが対応いたします。
- ② 乳がん検診で異常を指摘された方や乳房に症状がある方の精密検査：初診時にマンモグラフィーや乳房超音波検査を行います。さらに必要に応じて乳房MRIやCT等の画像診断を行います。また、穿刺吸引細胞診、針生検、マンモトーム生検などによる病理診断を行うこともあります。
- ③ 乳がん患者さんの治療や経過観察：乳がんの治療は手術・放射線治療・薬物療法（ホルモン治療、抗がん剤治療、分子標的薬治療、免疫療法）の3つの柱で構成されています。特に薬物治療については乳がんのタイプやがんのステージによって治療期間や使用する薬剤が異なります。

乳がんは比較薬物治療の感受性が高く、早期発見・適切な治療によって根治を目指した治療が可能です。当院では乳癌診療ガイドラインをベースとしつつ、他の診療科医師やコメディカルスタッフと連携を取り患者さん一人ひとりに寄り添った治療を提供いたします。

乳腺外科は今年度からの新体制で至らぬ点もあるかと思いますが、今後も患者さんが安心して適切な治療を受けられる環境をご提供できるように日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

J.M.S (ジャパンマンモグラフィーサンデー) プログラム
平日忙しい方へ、日曜日にマンモグラフィー検査を実施します！



当施設は10月15日(日)に乳がん検査が受診できます
NPO法人J.POSHは、子育て・介護・仕事など多忙な平日を過ごす女性が「10月第3日曜日に全国どこでもマンモグラフィ検査が受診できる」環境作りを主催しています。当院もこのプログラムに参加しています。

10月15日(日)に乳がん検診を行います。下記内容にてお電話での予約を受付中です。(定員になり次第終了)

受診人数：19名

検査内容：横浜市乳がん検診コース(680円～)

- a. マンモグラフィー検査 (オプション 乳腺エコー)
- b. 視触診+マンモグラフィー検査 (オプション 乳腺エコー)
- c. マンモグラフィー検査+乳腺エコー(希望に応じて視触診も可)

医師、技師、看護師の女性スタッフが対応いたします。

※70歳以上の方は、乳腺エコーを除く、費用が免除されます。

詳細は電話予約時にお問い合わせ下さい。

：自費検診コース(11,770円～)

お問合せ・ご予約はお電話でお願いします。

045-853-8362 (平日9:00～17:00)



特集 — 医師が語る疾患

「心原性ショックに対する新たな治療戦略

～インペラ (IMPELLA) の導入に伴うハートチーム結成～」

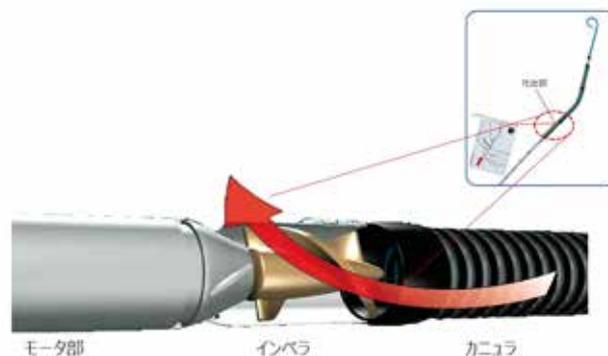
心臓血管外科医長 久米 悠太

循環器疾患の中には弁膜症や狭心症のように、重症度や疾患の複雑性によって循環器内科や心臓血管外科の治療を必要とする病気があります。超高齢化社会を背景として多くの合併症、複雑な病前状態を有する患者さんが増えていることから、単独診療科だけでなく多職種による治療方針検討が必要となってきました。そこで重要となってきたのがハートチームです。ハートチームとは、循環器内科、心臓血管外科のみならず多職種で構成された多角的な視点で患者さんを診療するための医療チームです。



当院では毎週、循環器内科と心臓血管外科で合同カンファレンスを開き、患者さんの治療方針を検討しています。そこに、救急・総合診療科、集中治療看護師や臨床工学技士を加えたハートチームを結成し、新たに導入したインペラ (IMPELLA) という高度医療機器の運用を含めて診療に当たる事にしました。

インペラとは左心室に留置し循環を補助するための超小型ポンプを内蔵したカテーテル装置で、2017年9月から国内で保険適応となりました。その効果は高く、重症心不全や心原性ショック、心筋炎などの治療に使用することで大幅に救命率が上昇するため、すでに全国230近く



*日本アビオメッド株式会社より提供

の施設で使用されています。当院では2020年に施設基準を取得しましたが、新型コロナウイルス感染症流行などのため導入時期を延期し、2023年5月から導入しています。適切に使用することで地域の患者さんに対する治療成績と救命率向上が期待できる先進的な医療機器であり、その運用にはハートチームが必須とされています。

このように、多職種で意見を出し合い複雑化する病状に応じて最適な医療を提供する事が、横浜南西部地区の救急医療を担当する地域中核病院としての責務と考えおり、インペラの導入によりこの地域で今まで救えなかった命が救われる可能性が高まります。どうぞご期待ください。なお、インペラに関する詳しい情報は「補助人工心臓治療関連学会協議会、インペラ部会」のホームページ (<https://j-pvad.jp/>) をご覧ください。

管理栄養士おすすめ ハマの健康レシピ

夏にぴったりの和スイーツ!

ずんだ餡の葛まんじゅう



栄養量(1個あたり)

熱量	100kcal
蛋白質	2.3g
脂質	1.2g
炭水化物	20.6g
塩分	0.1g

<ポイント>

夏に旬を迎える枝豆は“畑の肉”と呼ばれる大豆の未熟豆で、たんぱく質が多い上に大豆にはないビタミンCを多く含むなど、栄養価の高い食品です。

そんな枝豆を東北の郷土料理である「ずんだ餡」にして、葛粉で包むことで見た目にも涼しげな夏にぴったり和スイーツが出来ます。

また、カロリーが気になる方はずんだ餡の砂糖を人工甘味料等に置き換えることで、1個あたり80kcal以下に抑えることが出来ます。

是非作って食べてみて下さい。

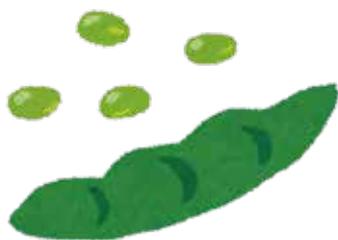
材料(4個分)

◎ずんだ餡

- ・枝豆(さやつき) 150g
(さやから出した状態で約80g)
- ・砂糖 20g
- ・塩 ひとつまみ

◎葛まんじゅう

- ・葛粉 30g
- ・砂糖 30g
- ・水 180ml



~Point~

冷蔵庫で冷やして食べる場合
食べる直前(15~20分前)に冷蔵庫
に入れて冷やして食べて下さい

☆作り方☆

◎ずんだ餡

- ①枝豆は塩(分量外)をふりかけ手で揉み洗いし、皮の汚れを取り水で洗い流す。
- ②鍋にお湯を沸かし、沸騰した所に枝豆を入れ、20分程度茹でる。(通常食べる時よりも長めに茹でる)
- ③茹で上がったたらざるにあけて、さやから取り出し、薄皮も剥く。
- ④すり鉢に枝豆を入れてすり潰す。
(すり鉢がない場合はフードプロセッサーにかける)
- ⑤枝豆がすり潰せたら砂糖を加え、さらにすり潰す。砂糖が溶けて充分になじんだら最後に塩をひとつまみ加えてずんだ餡は完成。
- ⑥完成した餡を4等分にして丸めておく。

◎葛まんじゅう

- ①ボウルに葛粉を入れ、分量の水を加えてへらで溶かす。沈殿しやすいためよく溶かしておく。
- ②茶こしを使い鍋に①をこし入れ、砂糖を加える。
- ③②を中火にかけて、加熱しながらへらで練る。
常にへらを動かして焦げないように注意する。
- ④白っぽい葛が透明に変わっていき、完全に透明となりツヤが出たら、火を止めてボウルに移す。
- ⑤ラップの上に④を大さじ1程度のせ、丸めた餡を1個のせる。その上に④(適量)のせてラップを閉じて形を整える。
- ⑥常温で冷まして完成。

リハビリ通信

～ウォーキングで病気を予防しましょう～

健康増進、生活習慣病予防のための運動として、老若男女問わずに行えて、障害が生じる危険も少ないものに“ウォーキング”があります。たとえば”がん”について、わが国の死因の第1位であり年間死亡者数は約38万人、新規がん罹患者は年間100万人を超えています。運動によって、予防できる可能性があることがわかっています。

そこで、手軽な病気予防のためにウォーキングはいかがでしょうか。特別な道具や環境を必要とせず、誰でもすぐに始められます。正しく効果的なウォーキングの方法は普段の歩きや散歩とは異なり、フォームを意識しながら歩くことが大切です。

理想的なフォーム



運動の目安

頻度: 週2回以上
 歩数: 20～64歳 男性 9000歩
 女性 8500歩
 65歳以上 男性 7000歩
 女性 6000歩

*あくまで参考値ですのでご自分の体力に合わせて無理のない範囲で調整しましょう!

Point! 継続するために気の合う友人を誘うのも一つの方法です。好きなスニーカーや新しい帽子を購入するなど、カタチから入ることで意欲を高めるのもよいでしょう。

check! 体調がすぐれないとき、天候の悪いときは無理に行わず中止しましょう。あまり距離や時間にこだわり過ぎずに、適度な水分補給を心がけましょう。

血液浄化センターを開設しました

西2階病棟エリアの一部を改修、建設しておりました血液浄化センター(5台)がこの度竣工し、令和5年6月13日より新たにスタートしました。

当院の血液浄化センターは入院患者さんの血液透析・血漿(けっしょう)交換などを行うためのお部屋となっており、窓が多くとても明るい環境です。

これまで血液透析等の治療は救急病棟の病室を利用して実施してきましたが、今回新たに血液浄化センターを開設することにより、救急病棟のすべてのベッドを救急患者さんのために活用することができるようになりました。

Pick Up!



職員リレー紹介

看護補助者

院内で写真のようなカラフルなユニフォームを見かけたことはありませんか？

看護部には、看護師のほかに補助業務を行う「看護助手」と「ナースエイド」が所属しています。今回はそれぞれのお仕事について、お話を聞きました。



村井さん

<看護助手>

やさしいピンク色のユニフォームです。看護助手は患者さんのオムツ交換や清拭、着替え、シャワー浴の介助など、看護師と一緒にいきます。

看護助手を目指したきっかけは、家族に看護師がいて、病院の仕事をすすめられたそうです。今ではやりがいを感じているとお話されていました。

それぞれの病棟で、コミュニケーションの取り方が異なるので、疾患のことを考えながら対応するように心がけているそうです。



八手幡さん

<ナースエイド>

日勤者は明るいグリーンのユニフォームです。患者さんを検査や診察にお連れしたり、退院後の室内清掃を行ったりします。ご自身に入院経験があり、看護師や医療従事者に色々助けられたことがきっかけだそうです。

患者さんの移動方法は車いすやベッド、歩行などさまざまですが安全に移動できるように注意を払っています。

夜勤者はスカイブルーのユニフォームです。日勤と同様に患者さんの付き添い、夜間の見守りを行います。話し相手になることも多いそうです。

ご家族が入院していた際、コロナ禍で面会が出来ずどう過ごしていたのかわからない時期がありました。病院はどんなところで、患者さんはどのように過ごしているのか、と考えることがきっかけで現職についたそうです。



麓さん

お仕事の「やりがい」を聞いてみると、みなさん「患者さんの笑顔です!!」と答えてくれました。患者さんだけでなく、職員とのコミュニケーションも大切にしているそうです。

「それぞれの患者さんに合わせてコミュニケーションを取り、困りごとを打ち明けてくれるまでになると嬉しいですね。患者さんだけでなく、看護師の動きを見て声掛けのタイミングをはかるなど視野を広く持つように心がけています（八手幡さん）」

「さまざまな患者さんがいるので、思うようにコミュニケーションが取れないこともあります。なんでも話してもらえようになりたいので、雰囲気作りが難しいです（麓さん）」

「大部屋でのケアは、他の患者さんとのバランスを考えながら行います。看護助手は、直接患者さんのケアを行う職種でもあるので、より距離が近いです。退院後に外来で声をかけてもらえると、とても嬉しいです（村井さん）」

終始みなさんの眼差しが熱く、とても印象的でした。より患者さんに近いからこそその悩みや喜びもあるそうです。

きっと、患者さんもみなさんの笑顔に癒されていることと思います。



病診連携施設紹介

岩出循環器内科クリニック

診療科：内科・循環器内科

院長 岩出 和徳

縁あって医療法人りんご会(本院：わかば医院)からお誘いがあり、2020年5月から岩出循環器内科クリニックを横浜医療センター向かい「野崎フルーツ」隣に開院、診療に当たらせていただいています。

職員は、医師：私、看護師1名、事務3名。検査もレントゲン、心電図、血圧脈波、心エコー超音波装置、ホルター心電図。院内緊急採血も循環器科領域のproBNP、トロポニン、D-dimerのみの小所帯。雇われ理事長兼院長として経理のことも疎く、収益も考えずに勤務しています。

20数年横浜医療センター循環器内科に勤務し、病診連携を病院の立場でかかりつけ医の先生方にお世話になっていました。クリニック開院後は、逆にかかりつけ医診療所の立場で横浜医療センターにお世話になっている日々です。

循環器内科を標榜していますが、自分の専門領域以外にも患者の全身管理が目標であり、横浜医療センターのすべての科に紹介させていただき、お教えいただいています(私も、横浜医療センターの患者としてお世話になっていますが)。地域医療連携室には頻りに電話もさせていただいていますが、対応も適切・確実に助かっています。

これからも、診療所の立場から地域医療に貢献できればと考えています。今後とも宜しくお願いします。



〒245-0063 横浜市戸塚区原宿4-14-15 グリーンビル1階
TEL : 045-443-8818 FAX : 045-443-8103

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:45~12:30	○	○	—	○	○	○ ※	—	—
14:00~17:00	○	○	—	○	○	—	—	—

備考 ※土曜日は第3のみ休診となります。

予約：なし

実施している検査内容：レントゲン、心電図、血圧脈波、超音波検査、至急採血(INR)

《診療のご案内》

* 当院は完全紹介制です。初診の場合はかかりつけ医等からの紹介状が必要です *

・ 初診受付時間は、午前8:30~10:30です。下記診療科以外は予約なしで受診できます。

＜初診時予約が必要な診療科＞

精神科、乳腺外科、緩和ケア内科、産科、呼吸器内科、脳神経内科

・ 診察の予約や、CT・MRI等の検査予約は、かかりつけ医にご依頼ください。

(精神科、乳腺外科、産科以外は患者さんからの予約は受け付けておりません。)

・ あらかじめ当院ホームページ等で休診情報、外来担当医表をご確認ください。



《交通アクセス》

【路線バスでお越しの場合】

・ 戸塚駅から
戸塚駅西口バスセンター2番のりばから
神奈中バス戸50、戸52、戸55系統に乗車

・ 大船駅から
大船駅西口5番のりばから 神奈中バス
船21、船22、船24、船25系統に乗車

・ 藤沢駅から
藤沢駅北口5番のりばから
神奈中バス 藤54、藤55系統に乗車

・ 立場駅から
立場バスターミナル4番のりばから
神奈中バス 船21、船22系統に乗車

※ いずれも「横浜医療センター前」または「横浜医療センター」下車

※ 大船駅東口から小型乗合バス「こすずめ号」で「横浜医療センター」下車 (平日昼のみ)

* 横浜市戸塚区原宿3-60-2



【車でお越しの場合】

国道1号・原宿交差点から環状四号線を北方向に進みすぐ。

瀬谷・泉方面からは環状四号線を大船方面に進み、原宿交差点手前。駐車場567台(有料)あり。



《病院理念》

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける患者中心の医療を目指します。

私たちは急性期の地域医療を基礎として、質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆さまがより良い医療が受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していきます。



独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター はらじゅくかわら版

<https://yokohama.hosp.go.jp/>

発行日: 2023年7月(第80号)

発行行: 横浜市戸塚区原宿3-60-2

横浜医療センター 広報委員会

発行責任者: 宇治原 誠

横浜医療センター 病院ブログ

<https://yokohama.hosp.go.jp/blog/index.html>

